

学校教育目標	「自ら輝くときわの子」 ～一人ひとりが輝く存在に～ 互いに学び合い、自分らしさを発揮する子の育成を目指します ○認め合い、学び合いながら、自ら向上しようとする子を育てます。(知) ○きちんとあいさつができ、感謝の気持ちをもてる子を育てます。(徳) ○自らの健康を考え、積極的に体力づくりに取り組む子を育てます。(体) ○地域・社会の一員として、自信をもって行動できる子を育てます。(公) ○人とのコミュニケーションを大切に、社会にかかわる子どもを育てます。(開)				
	学校概要	創立 64 周年	学校長 松本 理孝	副校長 新川 浩一	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 5
児童生徒数: 609 人		主な関係校: 保土ヶ谷中学校・上星川小学校・坂本小学校・星川小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	保土ヶ谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		<p>保土ヶ谷中学校 常盤台小学校 上星川小学校 坂本小学校 星川小学校</p> <p>○人・もの・ことのかかわりを通して自らの考えを深め、豊かなコミュニケーション力を持つ子どもが学習や生活のよい習慣を身につけ、確実に自分の力を伸ばそうと努力する子ども ・職員の間で共通理解のもと、子ども一人ひとりが自己有用感をもつことができる学級・仲間づくりに取り組みます。 ・教務主任会、専任会で情報を共有し、連携して課題解決にあたります。 ・小中交流を通して、子どもが安心して、また希望をもって中学校に進学できるようにします。</p>
<p><自己も他者も尊重し、互いにかかわっていく力></p> <p><自らすすんで挑戦していく態度></p>		

中期取組目標	<p>○子ども一人ひとりを大切に教育を進め、「チーム常盤台」として明るく輝きに満ちた学校を創ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりを通して、基礎基本の定着と表現力を高め学力を向上させます。 ・あいさつを大切に、物事の善悪を判断して行動できるようにします。 ・子ども一人ひとりの自己肯定感を高め、人のかかわりを豊かにします。 ・心身の健康のために、体力の向上とより良い生活習慣を形成します。 ・地域と連携しながら、地域の人材、施設等を活用した学習や体験学習を行います。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	「相手意識をもった学習活動の実践で学力向上」①調査結果をもとに指導の方針を立て、主体的・対話的な学習への授業改善と個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る②重点研究をもとに、相手意識をもった学習を実践し、表現力・判断力・思考力の育成を図る。
徳 豊かな心	「相手意識の活動による豊かな心の育成」①道徳の指導力向上を目指し、家庭・地域へ授業を公開する。②人権研修の充実を図る。③児童会・クラブ・縦割りなどの異学年活動の充実を図り、思いやりの心を育てる。④遠足、集団宿泊体験では自然や文化にふれる活動を充実させる。R6年度に向け、行事改革を推進する。
体 健やかな体	「共に活動し、つくる健康」①体を動かすことの大切さを味い、楽しんで活動できるように、体育学習の充実や縄跳び大会などの集会活動を取り入れる。②学校保健委員会の取組を通して健康の大切さを理解する。栄養士と連携して食に対する意識と意欲を高める。③ロング昼休みを活用し、外で遊びをする子を増やす。
公開 地域学校協働活動	「共に子どもたちの成長を支える活動」①子どもの安心・安全のために、保護者や地域を取り込んだ授業や行事運営を行う。特に、安全教育を推進する。その際、保護者・地域と連携を図る。②情報機器を活用し、学校の情報を発信する。③保護者や地域を③学校運営協議会の活動を充実させ、学校運営の助けとする。
いじめへの対応	「子どもの安心・安全を守る環境づくり」①「横浜プログラム」を積極的に活用し、人間関係の理解をもとに、具体的な指導・支援方法の立案し、いじめ未然防止を含め、いじめへの対応をする。専任を中心として組織的に行う。②いじめの積極的認知のより、いじめ問題に取り組む。
人材育成・組織運営(働き方)	「共に、人材育成、働き方を考える職場」①メンターチームの自主的な運営を通じ、教師力を高め、助言者としてのミドルリーダーの育成も図る。②働き方改革推進チームを立ち上げ、働き方や生き方を職場一人ひとりが考えていく学校運営をし、自己の健康に向き合った働き方を求めていく組織作りに励む。
ICT活用	「業務の効率化、授業改善のためのICT活用」①ICTを活用した業務の効率化を行い、一人ひとりの仕事について見直しをもつてできるようにする。②ICTを使った授業改善について、互いに、学び合い、情報共有をしながら、実践を増やし、広める。③出欠席をデジタルで把握し、業務の軽減を図る。
学年経営	「共に考え、高め合う学年経営」①5・6年教科分担制により高学年児童の心の安定と学びを深めていく。また、低、中、高学年に学年経営担当者をおき、全教員で学年経営に関わる。②学年主任会では、学年間や学年経営担当者の情報を交換し合い、学年経営の視点から、いじめ事案等を早期発見、早期解決につなげる。
児童指導	「児童・保護者と共感しあえる児童指導」①教職員が率先して挨拶をし、児童が挨拶の大切さに実感もてるようにする。②学年研究会、主幹会議、職員会議等での児童理解の時間を充実させ、児童の状況について共通理解を図る。また、児童アンケート結果を共有して、指導に生かす。
特別支援教育	「教育的ニーズにあった指導・支援の確立」①障害に応じた配慮・指導の仕方の研修を通じ、共通理解を図る。また、一般学級と個別支援学級との交流及び共同学習の充実をめざす。②インクルーシブ教育、合理的配慮、授業のユニバーサルデザイン化等の職員研修を行い、計画をしっかりと立て、共通した指導ができるようにする。